

## 第 4 章 桶川市の都市像

### 1 桶川の良さとは何か

本市は、古くから人々の生活の歴史が刻まれており、江戸時代には米麦やべに花の集散地として物流機能を担い、中山道の宿場町として繁栄していました。特に、大麦は「桶川麦」、べに花は「桶川臙脂（おけがわえんじ）」と呼ばれて全国的に知られていました。

本市には、この歴史の面影や生活文化が残り、また立地環境にも恵まれています。

#### (1) 恵まれた立地条件

- ・ 本市は、東京から 40 k m の埼玉県のほぼ中央に位置し、JR 高崎線で都心まで約 1 時間、また市内を国道 17 号線が南北に縦断、県道川越栗橋線が東西に横断しています。また、上尾道路の整備が進み、平成 22 年 3 月には首都圏中央連絡自動車道桶川・北本インターチェンジが開通するなど、交通の便が飛躍的に良くなっている状況です。
- ・ 隣接する上尾市・北本市・久喜市・川島町など他市町の住民が、通勤・通学などのため、また駅の至近にある県立文学館、市民ホールや、サン・アリーナなどの施設利用者や市内企業への通勤者が桶川駅を利用し、その旅客乗車数は 1 日平均 27,055 人、年間 9,875,075 人（22 年度）です。

#### (2) 引き継がれる伝統芸能やまつり

- ・ 毎年、べに花まつり、祇園祭（夏まつり）・市民まつりなどのイベントが開催され、多くの人が集まるだけでなく、その開催準備や運営を通して多くの市民が協力し合い、コミュニティを培っています。

#### (3) 恵まれた自然環境

- ・ 東京から近距離に位置しながら、里山（ 1 ）に代表されるような人との係わり合いの深い雑木林や谷水田（ 2 ）といった緑が存在し、その環境を生息場所とする動植物がたくさん見られ、中には貴重な動植物が生息しています。
  - 1 里山（さとやま）...人が利用してきた森林
  - 2 谷水田（たにすいでん）...谷状に入り込んだ地形に立地する水田

#### (4) 多種多様な近郊農業

- ・ 農家全体のうち 9 割が兼業農家という状況ですが、野菜、果実、米、麦、畜産など多種多様な農畜産物があります。

(5) 宿場町の面影を残す中山道や遺跡

- ・ 桶川宿本陣など中山道沿線には江戸・明治・大正・昭和初期の建築物が点在し、古い街並みの面影を残しています。
- ・ 市内各所には古墳や遺跡が点在し、歴史的・文化的に貴重な出土品が保存されています。

## 2 プラスしたい要素とは何か

より良いまちづくりをするためには、この“桶川の良さ”を生かし、またさらに伸ばしていくことが必要です。また、そうすることで長引く景気低迷や社会環境の変化などの影響により、厳しい現状に置かれた商工業の振興につなげることが重要です。

(1) 文化・まちづくりについて

- ・ 桶川駅西側の駅周辺では、昭和54年の工場移転後、住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）によるマンションなどの市街地整備が行われ、西口公園、響の森（県立文学館、市民ホール）の設置、大型商業施設の建設により、一定の整備を終え、桶川サン・アリーナの活用も盛んであることから、これらの施設の更なる活用と共に、音楽、演劇、美術、文学等のソフト事業に力を入れ桶川の文化を発信すること、また、施設間や世代間の交流を推進することで、様々な文化の保存・継承を図ることが必要です。
- ・ 桶川駅東側の駅周辺では、江戸時代に中山道6番目の宿場町として栄えたころの建造物など文化遺産を生かし安らぎと親しみの持てる景観とまちづくりを創出することが必要です。
- ・ 中山道沿線に残された古い街並みの面影や市内全域にある遺跡等を保存するだけでなく、観光的な要素を加えることが必要です。
- ・ 美しい街並みの住宅都市を形成するためには、緑や自然を大切にし、景観に配慮することが必要です。
- ・ 生活の利便性を向上させ、商店街の活性化を促進するためには、地域に暮らし、働く人々が日常生活に多く関わる医療機関や銀行などの公共的機関が進出できるような環境を調べると共に、また公共施設などを商店街周辺に整備することが必要です。

(2) 生活について

- ・ 楽しく、美しいまちを作るためには人が集まるまちづくりを推進し、住民と事業者との交流により、若者・高齢者そして障害の有無に関わらず様々な人々がまちに集う要素を備えることが必要です。
- ・ 桶川駅の乗降客の多くは通勤・通学客であることから、これらの人たちの要求に応えられる業種の商業施設を中心市街地に配置することが

必要です。

- ・市の内外にアピールするためには、日常生活に必要な商品の工夫、桶川産の新鮮で安全な農産物や加工品の提供、商店間の提携協力などを積極的に行い、宅配サービスなど、顔の見える商品や商いなど事業展開を工夫することが必要です。
- ・生活しながら、あるいは首都圏から近い桶川に行けば、豊かな自然とそれが生み出す多様な農作物や物産が手に入るという機会の創出が必要で
- ・消費者のニーズにあった商品開発とそのブランド化など個性化を進めることも必要です。

### (3) 心とまちのバリアフリーについて

- ・子どもを安心して生み育てられ、高齢者も若者も、障害のある人もない人も安心して暮らせるまちづくりには、生活支援サービス業(育児、介護サービス等)など新たな生活ニーズを支える産業を育成する環境を整備することが必要です。

### (4) 情報・通信について

- ・市内で開発された独自商品等については、IT化に対応し、特売やイベントなどの生活情報は携帯端末等の情報関連機器を活用して消費者に提供するシステムを造るなど、多様なニーズに応える事業展開を工夫することが必要です。

### (5) ゴミ減量化とリサイクルの徹底について

- ・事業者の環境改善への取り組みを促進するとともに、市独自の認証制度などの検討が必要で
- ・一部の商店やスーパーマーケットで進められているはかり売り、包装の簡素化、レジ袋を利用しない消費者にポイントカードによる特典制度などをさらに促進することが必要で
- ・市民が運営管理をする市民参加型リサイクルショップの開設などの検討が必要で
- ・商店街などの生ゴミの堆肥化を促進し、有機野菜の生産による「地産地消」を目指すことが必要で

### (6) マスコットキャラクターについて

- ・平成22年11月にデビューした桶川市マスコットキャラクター「オケちゃん」について、市の内外への啓発・PRを行い、同時にキャラクターグッズ・関連商品の開発を推進することで、新たな市場を開拓することが必要で

### 3 目指すべきまちの姿・都市像

本市では、事業者、消費者、在住・在勤者、来街者を視野に入れ、これらの人たちのニーズが反映された、地域産物・地域消費の自立した地域経済の創出を目指します。

このためには、現在の厳しい経済情勢や、東日本大震災の影響等により変化する社会情勢を踏まえながら、本章で述べたような本市の特性を生かし、伸ばすことにより「創造力・競争力・雇用吸収力」のある産業構造へ転換する必要があります。新たなサービスの開発、新分野への進出など、事業者の「経営革新」への取組の促進や、変化する消費者のニーズに合わせた付加価値の高い産業の育成や支援など、商工の振興と新たな雇用の創出に向けた対応をします。

また、単に物質的な豊かさの実現だけでなく、この経済活動を通じて、心が癒され、かつ思いやりに満ちた真の豊かさの実現を目標とします。

このような考え方から、商工振興における本市の将来都市像を

#### 人が集まる元気なまち 心がふれあう豊かなまち

とし、自立した地域社会の形成と、新しい価値を内外に発信する商工振興を目指します。

